

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

JPMベスト・インカム(年1回決算型)／(毎月決算型) | 2020年7月

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の拡大が続く中、金融市場は不安定な動きが続いています。

当レポートでは、ベスト・インカムの運用状況と今後の運用方針、よくあるご質問について運用チームの見解をお伝えいたします。

Q&A ご質問への回答は、4ページ以降に掲載しています。

ベスト・インカムの運用担当者



Michael Schoenhaut



Eric Bernbaum

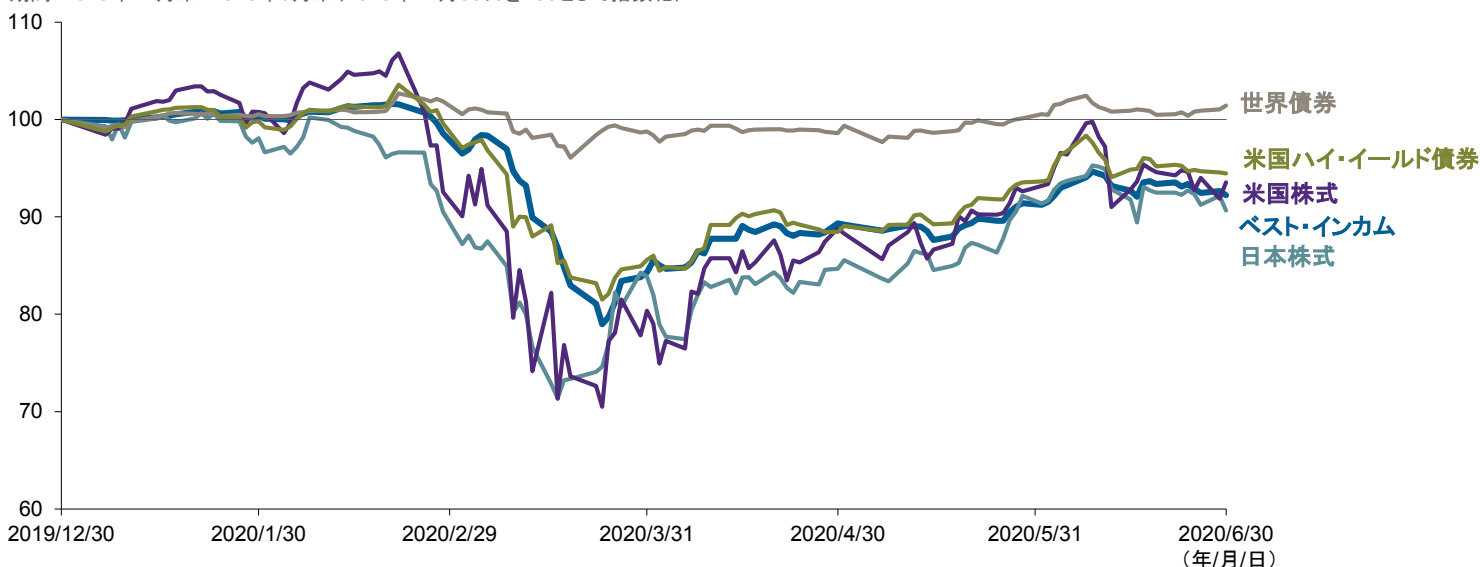
「ベスト・インカム」の運用状況(2020年初来)

主要国・地域の積極的な景気支援策などにより市場は回復基調となるも、変動性の高い環境が続く
ベスト・インカムでは、資産配分の変更がパフォーマンスの回復に貢献

- 2020年2月中旬以降、新型コロナの世界的な感染拡大に歯止めがかからず、世界経済の落ち込みに対する懸念が高まったことや、産油国間の交渉決裂を受けて原油価格が急落したことなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が急速に強まり、幅広い資産の価格が短期的に大きく下落しました。
- その後、主要国・地域の積極的な景気支援策が相次ぎ打ち出されたことや、経済活動が徐々に再開されたことなどから、経済回復への期待が高まり、市場は回復基調に転じました。6月に入ると、新型コロナの第二波や政治情勢の悪化が懸念され、変動性の高い相場展開となりました。
- このような環境下、ベスト・インカムでは下値抑制に重点を置いた慎重なポートフォリオ運営を行いました。4月以降は、社債市場の金融支援策に対応して先進国投資適格債券への投資比率を増やすなど、資産配分の変更がパフォーマンスの回復に貢献し、基準価額の月間騰落率は4月より3か月連続でプラスとなりました。
- 年初来の騰落率(2020年6月30日現在)は、-7.8%となりました。

2020年初来の「ベスト・インカム」と主な資産の推移(円ベース)

期間: 2019年12月末~2020年6月末(2019年12月30日を100として指数化)



※本資料では「JPMベスト・インカム(年1回決算型)／(毎月決算型)」を総称して「ベスト・インカム」といいます。8ページの注記をご参照ください。

出所: J.P.モルガン・アセット・マネジメント、ブルームバーグ

ベスト・インカムは、JPMベスト・インカム(毎月決算型)の分配金再投資基準価額を使用しています。分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後であり、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。JPMベスト・インカム(年1回決算型)の2020年初来騰落率: -7.8%(2020年6月30日現在)

基準価額以外の主な資産は、基準価額算出日の前営業日のデータを使用しています。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。使用インデックスについては、「本資料で使用している指数について」をご参照ください。各指数は市場動向をご理解いただくために示したものであり、当ファンドのベンチマークではありません。本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

「ベスト・インカム」のポートフォリオの状況(2020年5月末現在)

先行き不透明感の強い市場環境において、下値抑制に重点を置いた慎重なポートフォリオ運営を行っています。

株式資産

- 株式資産の比率は引き続き設定来での最低水準に近い22.8%となっています。
- 地域の分散を考慮しつつも、経営基盤が強固な米国の優良企業については投資妙味が高いと見ており、相対的に米国を選好しています。
- また、株式の中でも公益銘柄に分類され、下値抑制効果が期待されるインフラ株式への投資を継続しました。

債券資産

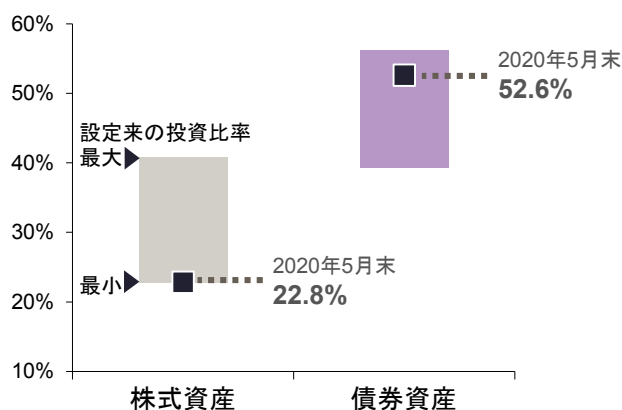
- 利息収入等が見込めるハイ・イールド債券の投資比率を高め維持しつつも、米国のハイ・イールド債券については、引き続きファンド設定来での最低水準に近い比率に留めています。
- 一方で、中央銀行による買入プログラムなど政策支援が追い風となることが期待され、且つ、国債よりも相対的に高い利息収入等が見込める先進国投資適格債券の比率を引き上げました。
- セクター別では、原油価格下落の影響などが懸念されるエネルギーセクターや、経済活動停止の影響などが懸念される金属・鉱業セクターなどを慎重に見る一方で、景気後退時に強みを発揮する通信セクターおよび、ヘルスケアや医薬品などを含む消費財(生活必需品)セクターなどを引き続き選好しています。
- 分散効果の観点から証券化商品への投資を継続した一方で、3月後半以降に中央銀行による対応が好感され値上がりしたタイミングをとらえ、一部売却を継続しています。

その他

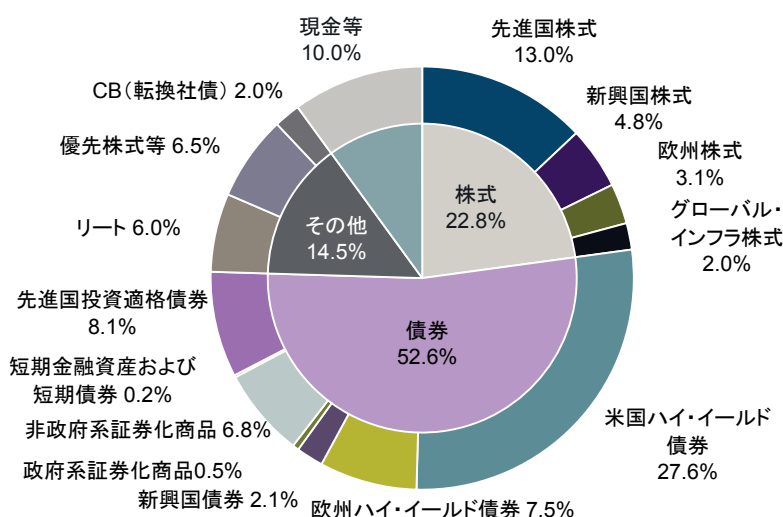
- 今後の収益機会を捉えるための買い余力、また、市場下落時の緩衝材として、引き続き一定の現金等を保有しています。

※投資比率の「引き上げ」「引き下げ」は、2020年3月末からの変更を記載しています。

株式資産および債券資産の構成比率



アセットクラス(資産)別構成比率 (2020年5月末現在)



ポートフォリオの概要 (2020年5月末現在)

平均利回り	投資アセットクラス(資産)数	投資銘柄数*
4.4%	14資産	3,029銘柄

出所: J.P.モルガン・アセット・マネジメント * 投資銘柄数は2020年4月末現在

平均利回り: 保有銘柄のうち株式やリート等については配当利回りを、債券等については最終利回りを、各アセットクラスの時価評価額に応じて加重平均したものです。為替ヘッジコスト/プレミアムやその他費用、税金を考慮したのではなく、実際の投資家利回りとは異なります。アセットクラスは当社グループの判断に基づき分類しています。比率はファンドの純資産総額を100%として計算しています。四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

市場見通しと今後の運用方針

慎重な姿勢を保ちながらも、徐々に投資機会を探ってゆきつつある状況。状況の変化に応じて、投資資産およびその配分を随時見直す方針です。

- 新型コロナの感染拡大などから「景気後退期」に移行したものの、今回の「景気後退期」はその速度が非常に速いものであったことから、今後景気が弱含む局面がある可能性はあるものの、少なくとも景気の底は既に打った可能性が高いと考えています。
- 各国・地域の中央銀行による金融緩和政策、政府による財政出動が継続していますが、これに加えて、今年後半に経済指標や企業業績が改善の兆しを見せることが想定され、これらは市場の上昇要因となるものと見ています。一方で、新型コロナの第二波や米国大統領選挙への思惑などから、市場のボラティリティ(変動性)が高まる可能性もあることには十分に留意する必要があると見ています。運用チームでは、引き続き、金融政策や財政政策の内容や規模、景気への影響、加えて各種経済指標や新規感染者数などをつぶさに注視および分析していきます。
- ベスト・インカムは、3月以降の非常に不透明感が強い市場環境の中で、リスクを過度にとらずに守りに重点を置いた運用をしてきました。今後については、市場のボラティリティが高まる局面には十分に留意しながらも、市場の上昇局面を捉えるべく徐々にリスク水準を引き上げることが可能な環境になりつつあると見ています。
- 株式においては、欧州など米国外の地域でも市場の回復が期待されます。債券市場では、先進国投資適格債券に加えて、ハイ・イールド債券も個別銘柄を厳選することで徐々に投資機会が増えていくものと見ています。ハイ・イールド債券市場全体では、原油価格下落の影響などからエネルギーセクターのデフォルト(債務不履行)・リスクが特に高まると見られるため、これらの投資を抑える一方で、コロナ・ショックを経て財務状況を前向きに改善しようとする企業の新規発行債券など個別銘柄を厳選投資していくことが重要であると考えています。また今後、状況が変化し、魅力的な投資機会が発生した場合には、ポートフォリオの内容を随時見直し、資産配分を変更していく方針です。

設定来の基準価額の推移 期間：2014年9月17日(設定日)～2020年6月30日



JPMベスト・インカム(年1回決算型)の分配金実績

第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	設定来合計
2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月	
0円	0円	0円	0円	0円	0円

JPMベスト・インカム(毎月決算型)の分配金実績

第5期	第6期	第7期～第67期	設定来合計
2015年2月	2015年3月	2015年4月～2020年6月	
30円	200円*	各30円	2,120円

※上記の市場見通しと今後の運用方針は2020年6月末時点のものであり、市場動向、経済・金融環境の変化などにより今後予告なく変更されることがあります。
 出所：J.P.モルガン・アセット・マネジメント * ボーナス分配を含む 基準価額は信託報酬控除後です。基準価額の騰落率は、分配金再投資基準価額を使用しています。分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後であり、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。分配金は1万口当たり、税引前。「毎月決算型」の第1期から第4期までは分配実績はありません。分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証しません。「毎月決算型」については、毎月の安定的な分配に更に乗せして、3、6、9、12月の決算時にボーナス分配を行うこともあります。ただし、いずれも必ず分配を行うものではありません。
 本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

Q A よくあるご質問にお答えします！

Q.1 2008年のリーマン・ショック時、運用チームはどのように対応したのか教えてください。

A.1 投資環境の変化をいち早く察知し、迅速な投資判断に基づいた「機動的な運用」によって、下値抵抗と回復力を発揮しました。

ベスト・インカムおよびベスト・インカムの投資先ファンドは、リーマン・ショック以降に設定されており、リーマン・ショック時の運用実績をご紹介することができないため、同じ運用チームによる同様の運用戦略を採用する類似ファンドを例にご説明いたします。

リーマン・ショック前後の類似ファンドの運用実績(下グラフ)

2008年のリーマン・ショックに伴う市場の急落局面においては、ほぼすべての資産が下落する環境であったことから、当運用戦略の類似ファンドも他の資産と同様に下落しましたが、世界株式や世界リートに比べ、その下落幅は抑えられました。

また、その後の回復局面においては、世界株式や世界リートなどの単一資産のパフォーマンスに比べて、相対的に安定した収益を獲得できました。

運用チームの対応

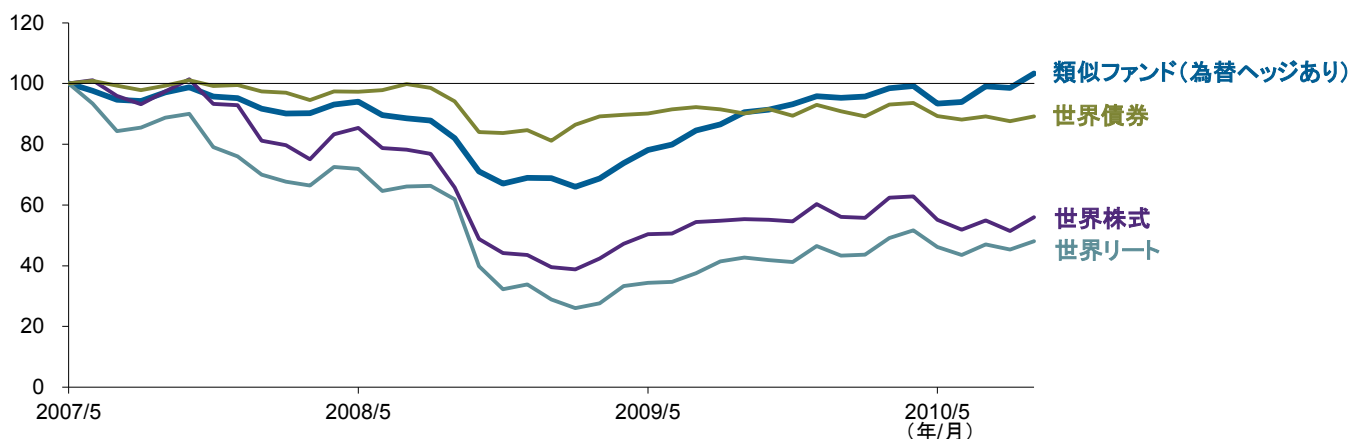
2007年後半、リームの担当者から、リート市場の過熱感が高まっていることから一旦、投資比率をゼロにすることが提案されました。その後、サブプライム問題に端を発する金融危機の影響でリート市場が急落する中、類似ファンドのポートフォリオではリームの比率を慎重にコントロールしたことから、相対的に下落幅を抑制することができました。

また、ショック後には割安に放置されていた株式やリートへの投資比率を引き上げるなど、相場反転局面での投資機会を積極的に捉えたことがパフォーマンスの回復につながりました。

個別のアセットクラス(資産)については、その資産の担当者が深い洞察力を有しています。投資環境の変化をいち早く捉えるとともに、運用チーム内での迅速な情報共有に基づき機動的な投資判断を行うなど、ベスト・インカムの運用チームにおける危機対応力が発揮された結果であると考えています。

シミュレーション

[ご参考]主な資産(為替ヘッジなし)と類似ファンド(為替ヘッジあり)のパフォーマンス(円ベース)



出所:ブルームバーグ

期間:2007年5月31日~2010年9月末(2007年5月31日を100として指数化、類似ファンドが100に戻るまでの期間)類似ファンドの設定日は2007年5月31日です。
 類似ファンド(為替ヘッジあり):投資先ファンド「グローバルインカムファンド」と同様の運用戦略を採用する外国籍の「JPMorgan Income Builder Fund」の「Cクラス、米ドル建て」の税引前分配金再投資後の運用実績(運用報酬控除後)をもとに、米ドルと円の1ヵ月LIBORの金利差を為替ヘッジコスト/プレミアムとみなして米ドル売り円買いの為替取引をしたと仮定して試算したものです。2014年9月14日設定の「ベスト・インカム」や2008年12月11日設定のベスト・インカムの投資先ファンド「グローバルインカムファンド」の「Aクラス(div、ユーロ建て)」は、リーマン・ショック時の運用実績を示すことができないため、類似ファンドを用いて運用戦略をご理解いただくためにお示ししています。また、当ファンドが投資対象とする「グローバルインカムファンド」の「Iクラス(円建て、円ヘッジ)」の運用実績ではありません。類似ファンドは、国内でのお取扱いはありません。各指数は、代表的な市場の動向を相対的にご理解いただくためにお示したものであり、当ファンド、投資先ファンド、類似ファンドのベンチマークではありません。使用インデックスについては、「本資料で使用している指数について」をご参照ください。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

Q.2 ベスト・インカムは過去の大きな市場急落時に、どのような値動きをしましたか？

A.2 主な資産と比較して下落幅を小さく抑えつつ、その後の回復が相対的に早い傾向にありました。

過去の市場下落局面において「ベスト・インカム」では、下値に配慮した運用を行いファンドのリスク量を引き下げるとともに、相場反転時におけるリターンを獲得を目指し、株式やハイ・イールド債券等で相対的に割安となったクオリティ(質)の高い銘柄を買い増すなど機動的な運用を継続しました。

その結果、過去の市場の大きな下落局面では、主な資産と比較して下落幅を小さく抑えつつ、その後の回復が相対的に早い傾向にあったことが分かります。

また、安定した収益であるインカムを重視した運用であることも「下値抵抗力」を発揮した要因となりました。

「ベスト・インカム」では、日々変化する市場環境に対応し、このようなリスクが高まる環境にも配慮しつつ随時ポートフォリオの内容を見直す機動的な運用を行っています。

過去の市場下落局面における「ベスト・インカム」と主な資産の推移(円ベース)

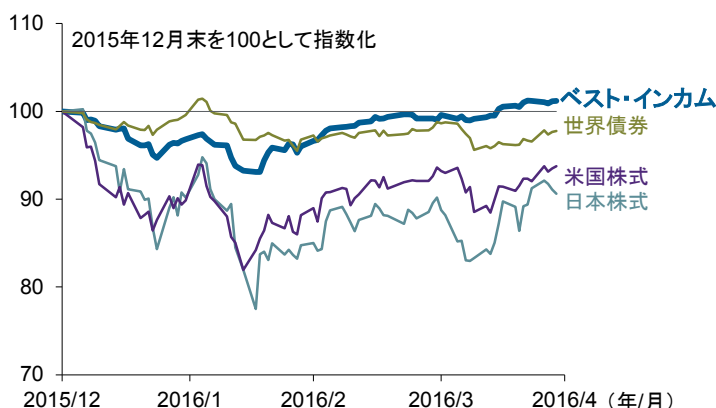
2015年8月 チャイナショック
グラフ期間：2015年7月末～2016年7月末

中国経済の減速から世界経済の減速懸念が高まったことや、米国の利上げ開始への思惑、人民元の切り下げなどにより投資家の警戒感が強まり、世界的な株安などリスク資産の下落が連鎖しました。



2016年初 世界同時株安
グラフ期間：2015年12月末～2016年4月末

2016年2月に原油価格が大きく下落しWTI先物価格がリーマンショック後の最安値を更新したことや、中国経済への不安、地政学リスクの高まりなどをを受け、世界的に株式などのリスク資産が下落しました。



2018年後半 米国長期金利上昇などによるリスク資産下落
グラフ期間：2018年9月末～2019年6月末

2018年10月以降、米国長期金利が短期間で一段上のレベルに上昇したことや米中貿易摩擦の長期化への懸念が高まったことなどから、米国株式を中心に多くのリスク資産が下落しました。



出所：J.P.モルガン・アセット・マネジメント、ブルームバーグ
【グラフ】ベスト・インカムは、JPMベスト・インカム(毎月決算型)の分配金再投資基準価額を使用しています。分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後であり、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。基準価額以外の主な資産は、基準価額算出日の前営業日のデータを使用しています。

【各グラフ期間におけるベスト・インカムの騰落率】(上段左グラフ期間)年1回決算型:0.64%、毎月決算型:0.65% (上段右グラフ期間)同:1.19%、1.19% (下段左グラフ期間)同:2.00%、1.99%

使用インデックスについては、「本資料で使用している指数について」をご参照ください。各指数は市場動向をご理解いただくために示したものであり、当ファンドのベンチマークではありません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

Q.3 分散投資の効果はあるのですか？

ベスト・インカムは、徹底した分散投資でリスクを抑えると聞いていますが、今回のコロナ・ショックによる市場の下落で分散投資の効果は見られましたか？

A.3 市場では、急速にリスク回避姿勢が高まると幅広い資産が同時に下落する場面があります。しかし中長期でみると、リスクを抑える1つの方法として分散投資が重要であると考えます。

本来、株価が下落する局面では安全資産とされる国債などの資産が買われる傾向にあるため、分散投資の基本のひとつとしてあげられる株式と国債には逆相関(逆の値動きをする)の傾向があります。

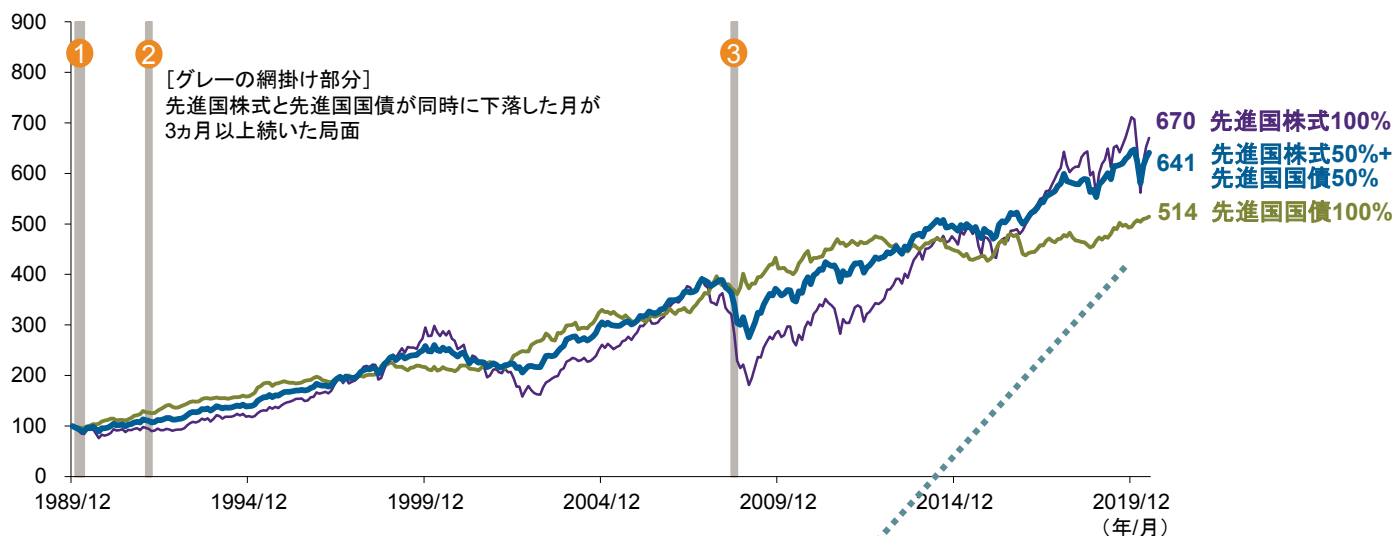
しかし、今回のコロナ・ショックの下落局面では、市場が冷静さを失う中でキャッシュ(現金)が最も強い資産とされ、株式や国債など資産の種類を問わず、幅広い資産に売り圧力がかかったことから、一時的に株式と国債の逆相関が崩れる場面(相対的にリスクが高い株式とリスクが低い国債が同時に下落)がみられました。

その後、各中央銀行による金融緩和政策などを受け、国債市場は再び落ち着きを取り戻しています。

このように、強いショック時には一時的に分散効果が低下することがありますが、過去を振り返ると、そのような局面は稀であることがわかります。今後もリスクを抑えるには、分散投資が重要と考えています。

先進国株式と先進国国債のパフォーマンス

期間：1989年12月末～2020年6月末(1989年12月末を100として指数化)、米ドルベース



先進国株式と先進国国債が同時に下落した月が3か月以上続いたのは、3回のみ

(過去約30年間)

[主な出来事]

- ① 1990年1月～1990年4月：日本の金利上昇、バブル終焉
- ② 1992年1月～1992年3月：日本の景気後退
- ③ 2008年8月～2008年10月：リーマン・ショック



コロナ・ショックによるリスクオフ局面の騰落率

(期間：2020年3月9日～2020年3月19日*)

先進国株式 -15.0%

先進国国債 -8.7%

先進国株式50%+先進国国債50% -11.6%

出所：ブルームバーグ * 2020年年初来(3月末まで)における先進国国債の最高値から最安値までの期間

使用インデックスについては、「本資料で使用している指数について」をご参照ください。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

Q.4 ベスト・インカムは「機動的な運用」と聞いていますが、国債や現金の比率を増やさないのでですか？

株式など金融市場では不安定な動きが続いているようですが、もっと国債や現金の比率を増やすなど、投資資産や比率を大きく見直すことはしないのですか。

A.4 ベスト・インカムの運用において最も重視しているのは、インカム(利回り)水準です。現状、インカム収益がほぼ見込まれない国債や現金への投資比率を大幅に引き上げることはしていません。

国債よりもやや利回りが高く、安全資産の位置づけとして保有していた政府系証券化商品や、現金については、足元で一時的に組み入れを増やしましたが、以下の理由から、比率を大幅に引き上げることはしていません。

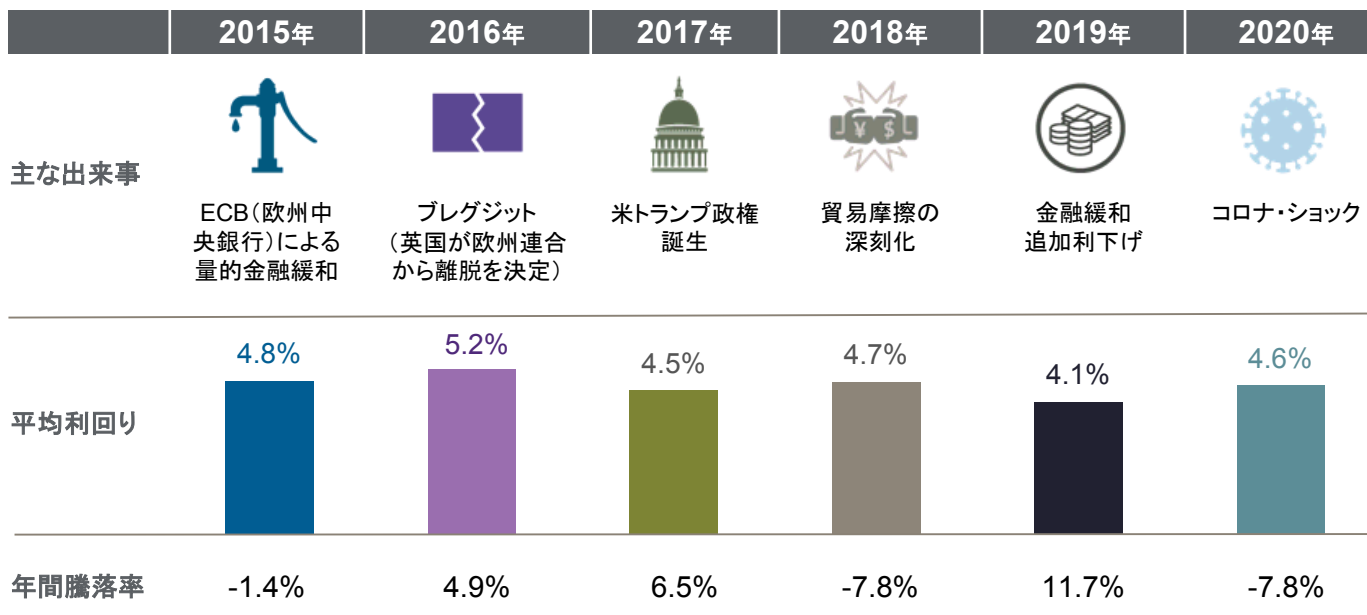
ベスト・インカムは、どのような投資環境でも安定したインカム収益を獲得することを追求しています。短期的な価格変動を予想することは難しいですが、債券の利息や株式の配当金など、一定期間毎に受取ることのできるインカム収益を積み上げることは、長期で安定したパフォーマンスにつながると考えているためです。

現在、国債や現金の利回りは、ゼロ近辺か、通貨によってはマイナスの利回りです。これらを極端に増やしてしまうと、利回りが取れないことに加え、その後の相場の反発局面も捉えることができないと考えます。

そのため、低金利環境下の現在においては、国債や現金の比率は、一時的に多少変更を行うことはあるものの、大幅に引き上げることはしていません。

ベスト・インカムはどのような局面でも長期的なリターンを獲得を目指し、インカム収益を追求し続けることを重要なコンセプトとしています。

ベスト・インカムの平均利回り*1と年間騰落率*2の推移



出所: J.P.モルガン・アセット・マネジメント *1 各年における1月から12月までの各月末の平均利回りの平均値です。2020年は2020年5月末現在。平均利回りは、ベスト・インカムのポートフォリオのデータ。ベスト・インカムのポートフォリオの利回りは、保有銘柄のうち株式やリート等については配当利回りを、債券等については最終利回りを、各アセットクラスの時価評価額に応じて加重平均したものです。為替ヘッジコスト/プレミアムやその他費用、税金を考慮したのではなく、実際の投資家利回りとは異なります。*2 2020年は2020年6月30日現在。上記年間騰落率は、JPMベスト・インカム(年1回決算型)およびJPMベスト・インカム(毎月決算型)の実績です。騰落率の計算は、分配金再投資基準価額を使用しており、信託報酬控除後です。分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証しません。騰落率は投資家利回りとは異なります。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

ファンドの特色

- 世界の債券、株式、リート(REIT)、その他の有価証券を投資対象とし、高いインカム収益および値上がり益が期待できるアセットクラスに分散投資します。**
 - 世界の債券、株式、リート、その他の有価証券に投資するグローバルインカムファンドの組入比率を高位に保つとともに、円建ての公社債に投資するマネーブル・ファンドにも必ず投資します。
- 市場環境等の変化に応じて組入れるアセットクラスおよびその配分を機動的に変更します。**
 - マクロ経済の予測や、各アセットクラスの評価・分析の情報をもとに、市場環境等の変化に応じて、インカム収益および値上がり益が最も期待されるアセットクラスを選択し、その配分を機動的に変更します。
- J.P.モルガン・アセット・マネジメントのグローバルなネットワークを活用します。**
- 投資先ファンドであるグローバルインカムファンドにおいては、原則として為替ヘッジを行います。**
 - グローバルインカムファンドは、原則として基準通貨(ユーロ)に対して為替ヘッジを行います。一部当該ヘッジを行わない資産を保有する場合があります。
 - ファンドは、グローバルインカムファンドの保有資産について、対円で為替ヘッジした同ファンドのシェアクラスに投資し、ユーロと円との為替変動による影響を抑えます。(保有資産の一部について、当該ヘッジを行わない場合があります。)
 - その結果、為替ヘッジを行わない資産の建値通貨とユーロとの(または当該資産の建値通貨と円との)為替変動による影響を受ける場合があります。

年1回決算を行う「年1回決算型」と毎月決算を行う「毎月決算型」があります。

年1回決算型	年1回の決算時(9月15日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。
毎月決算型	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に安定的に分配を行います。また3、6、9、12月の決算時にボーナス分配を行うこともあります。

ただし、いずれも必ず分配を行うものではありません。「ボーナス分配」とは、毎月の安定的な分配に更に上乗せして分配することをいいます。販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

💡 インカム収益とは

債券の利息や株式の配当金など、一定期間ごとに受取ることでできる収益を指します。また、インカム収益は、安定して積み上がっていく収益であることが特徴です。

※ただし、必ずしも利払い日や決算時に利息や配当金を受け取れるとは限りません。

※本資料では「JPMベスト・インカム(年1回決算型)／(毎月決算型)」を総称して「ベスト・インカム」といいます。ベスト・インカムでは、ベビーファンドの資金をマザーファンドに投資し、さらにマザーファンドはその資金を2つの投資先ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ方式で、投資先ファンドが実際に有価証券に投資することにより、その実質的な運用を行います。投資先ファンドである「JPモルガン・インベストメント・ファンズ・グローバル・インカム・ファンド」(各シェアクラスを統合したファンド全体)または、その「1クラス(円建て、円ヘッジ)」を「グローバルインカムファンド」といい、投資先ファンドである「GIMジャパン・マネーブル・ファンドF(適格機関投資家専用)」を「マネーブル・ファンド」といいます。またマネーブル・ファンドのマザーファンドである「GIMマネーブル・マザーファンド(適格機関投資家専用)」を「マネーブル・マザーファンド」といいます。「ベスト・インカムの投資先ファンド」とは「グローバルインカムファンド」を指します。ベスト・インカムの投資先ファンドの運用戦略、ポートフォリオをそれぞれ「ベスト・インカムの運用戦略」、「ベスト・インカムのポートフォリオ」と呼ぶ場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



JPMベスト・インカム

バランスのとれた運用レシピで、
“ヘルシー・インカム”を。

[詳しくはこちら](#)

LET'S SOLVE IT.
資産運用で、解決しよう。

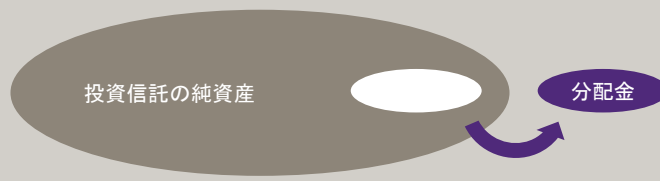


運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

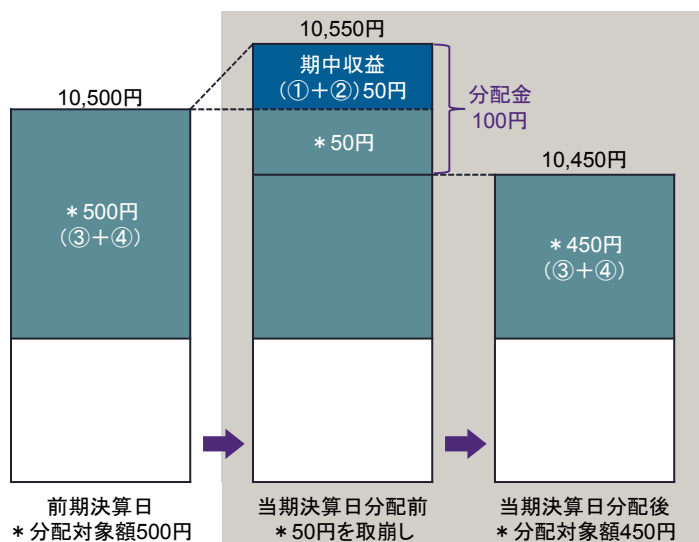


- 分配金は、決算期中に発生した収益(経費*1控除後の配当等収益*2および有価証券の売買益*3)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも決算期中におけるファンドの収益率を示すものではありません。

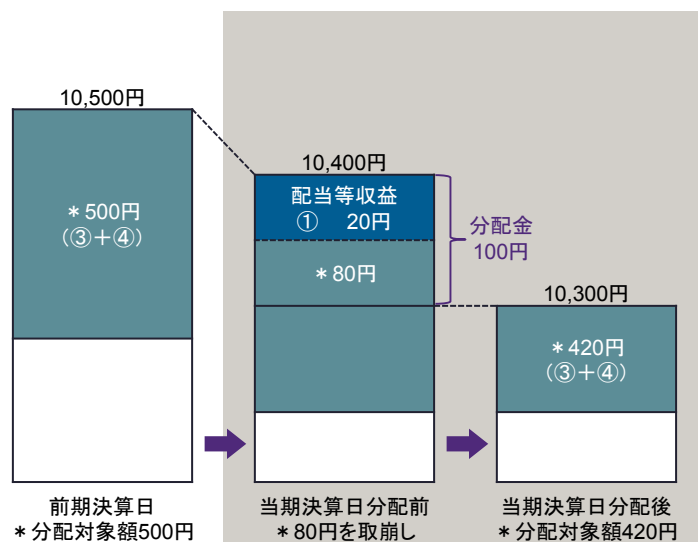
*1 運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料をいいます。 *2 有価証券の利息・配当金を主とする収益をいいます。 *3 評価益を含みます。

決算期中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



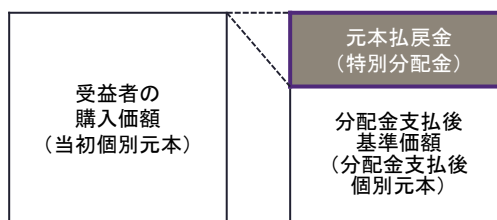
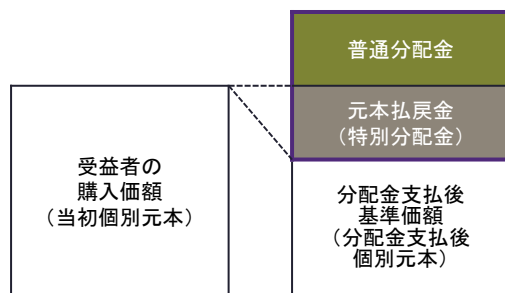
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の有価証券の売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分是非課税扱いとなります。

普通分配金: 個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

※上記はイメージであり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

投資リスク

ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。
投資信託は元本保証のない金融商品です。投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因

ファンドは、投資先ファンドを通じて国内外の債券、株式、リート、その他の有価証券に投資しますので、以下のような要因の影響により基準価額が変動し、下落した場合は、損失を被ることがあります。下記は、ファンドにおける基準価額の変動要因のすべてではなく、他の要因も影響することがあります。

【債券のリスク】

信用リスク	債券の発行体の財務状況の悪化や倒産、所在する国家の政情不安等により、元本・利息の支払いが遅れたり、元本・利息が支払えない状態になった場合、またそれが予想される場合には、当該債券の価格が変動・下落することがあります。また、当該債券の価格は、格付の変更によっても変動・下落することがあります。
ハイ・イールド債券の投資に伴うリスク	ハイ・イールド債券は、金利の変化につれて価格が変動する債券としての性質を持つとともに、政治・経済情勢、発行会社の業績等の影響を受けて価格が変動する株式に類似した特質を併せ有しています。このため、ハイ・イールド債券の価格は、格付が高い債券に比べて、株式と同様の要因による影響をより強く受け、変動・下落することがあります。また、ハイ・イールド債券は、格付が高い債券に比べて、前記の信用リスクが高いため、当該債券の価格がより大きく変動・下落することがあります。
金利変動リスク	金利の変動が債券の価格に影響を及ぼします。一般に、金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。金利変動による債券の値動きの幅は、債券の残存期間、発行体、種類等に左右されます。

【株式のリスク】

株価変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化、市場における需給・流動性による影響を受け、変動することがあります。
---------	--

【リートおよびその他のリスク】

リーートのリスク	<p>(a) 保有不動産のリスク: リートを発行する投資法人等が保有する不動産(建物)の入居率が低下したり、賃料が下落したりする場合、収益性が悪化することがあります。また、リートを発行する投資法人等がその保有する不動産を売却する場合、想定していた価格と大きく異なることがあります。こうした要因により、リーートの価値が変動・下落することがあります。</p> <p>(b) 金利リスク: リートを発行する投資法人等は、投資する不動産の取得資金の手当てを金融機関からの借入れに依存している場合が多く、金利の上昇は、金利負担の増大によりリートを発行する投資法人等の収益性を悪化させます。このような場合、リーートの価値が変動・下落することがあります。</p> <p>(c) 倒産リスク: リートを発行する投資法人等には、一般の企業と同様に資金繰りや収益性の悪化により、倒産の可能性があります。倒産した場合、リーートの価値は通常下落し、価格がゼロになることもあります。</p>
為替変動リスク	投資先ファンドであるグローバルインカムファンドにおいては、原則として為替ヘッジを行います。ヘッジを行った場合でも為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。
カントリーリスク	<p>新興国に投資した場合は以下のようなリスクがあり、その影響を受け投資資産の価値が変動する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 先進国と比較して一般的に政治、経済、社会情勢等が不安定・脆弱な面があり、有価証券や通貨の価格に大きく影響する可能性があります。 ■ 有価証券・通貨市場の規模が小さく流動性が低いため、有価証券・通貨の価格変動が大きくなる場合があります。 ■ 先進国と比較して法規制の制度や社会基盤が未整備で、情報開示の基準や証券決済の仕組みが異なること、政府当局による一方的な規制導入もあることから、予期しない運用上の制約を受けることがあります。 ■ 税制が先進国と異なる面がある場合や、一方的な税制の変更や新税制の適用がある場合があります。
デリバティブ取引のリスク	投資先ファンドは、デリバティブ取引を用いる場合があります。デリバティブ取引は、その他の投資手段と比較して、有価証券の価格の変動に対してより大きく価格が変動・下落することがあります。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	手数料率は 3.3% (税抜3.0%) を上限とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 (購入時手数料=購入価額×購入口数×手数料率(税込)) 自動けいぞく投資コースにおいて収益分配金を再投資する場合は、無手数料とします。
信託財産留保額	かかりません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンド	ファンドの純資産総額に対して年率1.023%(税抜0.93%)がかかり、日々の基準価額に反映されます。
	投資先 ファンド	投資先ファンドの純資産総額に対して以下の費用がかかります。 グローバルインカムファンド: 年率0.60% (注)消費税等はかかりません。 マネーボール・ファンド: 年率0.1045%(税抜0.095%)
	実質的な負担 (概算)	純資産総額に対して 年率1.62%程度(税抜1.53%程度) がかかります。 グローバルインカムファンドに純資産総額の99.9%を投資した場合のものです。投資先ファンドの投資比率により、実際の負担と異なる場合があります。
その他の費用・ 手数料	「有価証券の取引等にかかる費用*」「外貨建資産の保管費用*」「信託財産に関する租税*」「信託事務の処理に関する諸費用、その他ファンドの運用上必要な費用*」「目論見書の印刷に要する実費相当額*」「グローバルインカムファンドの事務管理費用(同ファンドの純資産総額に対して上限年率0.11%)」「ファンド監査費用(純資産総額に対して年率0.022%(税抜0.02%)、上限年間330万円(税抜300万円))」 * 運用状況等により変動し、適切な記載が困難なため、事前に種類ごとの金額、上限額またはその計算方法等の概要などを具体的に表示することができないことから、記載していません。	

ファンドの費用の合計額は、ファンドの保有期間等により変動し、表示することができないことから、記載していません。

ご購入の際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

取扱販売会社について

投資信託説明書(交付目論見書)は下記の販売会社で入手することができます。登録番号に「金商」が含まれているものは金融商品取引業者、「登金」が含まれているものは登録金融機関です。株式会社を除いた正式名称を昇順に表示しています。下記には募集の取扱いを行っていない販売会社が含まれていることがあります。また、下記以外の販売会社が募集の取扱いを行っている場合があります。下記登録金融機関(登金)は、日本証券業協会の特別会員です。

2020年7月1日現在

金融商品取引業者等の名称	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種 金融商品取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社 足利銀行	関東財務局長(登金)第43号	○			○
株式会社 イオン銀行 ^{*1}	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社 池田泉州銀行	近畿財務局長(登金)第6号	○			○
いちよし証券株式会社 ^{*2}	関東財務局長(金商)第24号	○		○	
auカブコム証券株式会社	関東財務局長(金商)第61号	○			○
エース証券株式会社	近畿財務局長(金商)第6号	○			
株式会社 SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
FFG証券株式会社	福岡財務支局長(金商)第5号	○			
株式会社 関西みらい銀行	近畿財務局長(登金)第7号	○			○
極東証券株式会社	関東財務局長(金商)第65号	○	○		
クレディ・スイス証券株式会社	関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
ぐんぎん証券株式会社	関東財務局長(金商)第2938号	○			
ごうぎん証券株式会社	中国財務局長(金商)第43号	○			
株式会社 埼玉りそな銀行	関東財務局長(登金)第593号	○			○
七十七証券株式会社	東北財務局長(金商)第37号	○			
株式会社 十八銀行 ^{*1}	福岡財務支局長(登金)第2号	○			
株式会社 新生銀行	関東財務局長(登金)第10号	○			○
株式会社 親和銀行 ^{*1}	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社 但馬銀行	近畿財務局長(登金)第14号	○			
株式会社 千葉銀行	関東財務局長(登金)第39号	○			○
株式会社 中京銀行	東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社 東京スター銀行	関東財務局長(登金)第579号	○			○
株式会社 南都銀行	近畿財務局長(登金)第15号	○			
野村證券株式会社	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
PWM日本証券株式会社	関東財務局長(金商)第50号	○	○		
株式会社 百五銀行	東海財務局長(登金)第10号	○			○
百五証券株式会社	東海財務局長(金商)第134号	○			
フィデリティ証券株式会社	関東財務局長(金商)第152号	○			
松井証券株式会社 ^{*1}	関東財務局長(金商)第164号	○			○
マネックス証券株式会社	関東財務局長(金商)第165号	○		○	○
株式会社 三井住友銀行	関東財務局長(登金)第54号	○	○		○
三菱UFJ信託銀行株式会社	関東財務局長(登金)第33号	○		○	○
株式会社 三菱UFJ銀行	関東財務局長(登金)第5号	○	○		○
株式会社 三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・ スタンレー証券株式会社)	関東財務局長(登金)第5号	○	○		○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレーPB証券株式会社	関東財務局長(金商)第180号	○		○	
株式会社 横浜銀行	関東財務局長(登金)第36号	○			○
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社 りそな銀行	近畿財務局長(登金)第3号	○		○	○

*1 JPMベスト・インカム(毎月決算型)のみのお取り扱いとなります。

*2 いちよしファンドラップ「ドリーム・コレクション」にて、JPMベスト・インカム(年1回決算型)のみのお取り扱いとなります。

投資信託委託会社

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

運用チームに聞く！ベスト・インカムの運用状況と投資方針

本資料で使用している指数について

日本株式【TOPIX(配当込み)】、世界債券【ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス】、米国株式【S&P500指数(配当込み)】、米国ハイ・イールド債券【ブルームバーグ・バークレイズ米国ハイ・イールド債券インデックス(2%IssuerCap)】、世界株式【MSCI ACWIインデックス(配当込み)】、先進国株式【MSCI ワールド・インデックス(配当込み)】、先進国国債【FTSE世界国債インデックス】、世界リート【S&PグローバルREIT指数(配当込み)】

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、ファンドは、東証等により提供、保証または販売されるものではなく、東証等は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

S&Pの各インデックスは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが発表しており、著作権はS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCに帰属しています。S&Pの各指数の円ベースは、同社が発表した各インデックスを委託会社にて円ベースに換算したものです。

MSCIの各インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。MSCIの各インデックスの円ベースは、同社が発表した各インデックスを委託会社にて円ベースに換算したものです。

「FTSE」及び「FTSE®」は、ロンドン証券取引所(London Stock Exchange Plc)並びにフィナンシャル・タイムズ社(The Financial Times Limited)の商標であり、ライセンスに基づいてFTSEが使用しています。FTSEが発表する各指数は、FTSEの商標であり、本指数の算出、指数値の公表、利用など、本指数に関するあらゆる権利はFTSE及び/又は、そのライセンス提供者に帰属します。FTSEは、本指数値の算出もしくは公表の方法の変更、並びに公表の停止を行なうことができます。また、算出又は公表の誤謬、遅延または中断に対し、一切責任を負いません。「NAREIT®」はNational Association of Real Estate Investment Trustsの商標です。「EPRA®」はEuropean Public Real Estate Associationの商標です。FTSE EPRA/NAREIT Index Seriesは、FTSEによって計算されます。FTSE EPRA/NAREIT Index Seriesの全ての権利は、FTSE又はその関連パートナー会社にて与えられています。

※ J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下、「当社」という。)が作成したものです。当社は信頼性が高いとみなす情報等に基づいて本資料を作成しておりますが、当該情報が正確であることを保証するものではなく、当社は、本資料に記載された情報を使用することによりお客さまが投資運用を行った結果被った損害を補償いたしません。本資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社および当社グループの判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、当該意見・見通しの実現を保証するものではありません。また、当該意見・見通しは将来予告なしに変更されることがあります。本資料は、当社が設定・運用する投資信託について説明するものであり、その他の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。また、当社が当該投資信託の販売会社として直接説明するために作成したものではありません。

投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負います。過去の運用成績は将来の運用成果を保証するものではありません。投資信託は預金および保険ではありません。投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託を証券会社(第一種金融商品取引業者を指します。)以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の保護の対象ではありません。投資信託は、金融機関の預金と異なり、元本および利息の保証はありません。取得のお申込みの際は投資信託説明書(交付目録見書)および目録見書補完書面をあらかじめまたは同時にお渡ししますので必ずお受け取りの上、内容をご確認ください。最終的な投資判断は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。